

マグロ類における緊急赤潮情報 6-2

令和4年7月27日
大分県農林水産研究指導センター水産研究部

別府湾～津久見湾にかけて、有害プランクトン（カレニア・ミキモトイ）が注意密度を超え、分布域を拡大しています。マグロ類の管理にくれぐれもご注意下さい。

発生場所 別府湾～津久見湾
発生期間 7月22日～
プランクトン カレニア・ミキモトイ
下ノ江(奥) 127 cells/ml (8m層)
※詳細は別添参照

(カレニア・ミキモトイ赤潮の注意点)

- ・ マグロの場合 警戒密度：200 cells/ml 注意密度：20 cells/ml
- ・ カレニア・ミキモトイは魚介類の斃死を引き起こす非常に有害な赤潮プランクトンです。
- ・ 特に、アワビ、サザエ等では海面が着色する前に斃死する可能性があります。
- ・ 表層が着色しなくても、中層に赤潮を形成していることがあります。
- ・ 午前中、海色が良くても午後から色が悪くなる場合があります。
- ・ パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、畜養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。
- ・ 低密度でも被害を引き起こす可能性があります。

赤潮発生場所での対応

- ・ 投餌は控える。
- ・ 赤潮海域へ魚介類を入れない。
- ・ 赤潮海域から魚介類を避難する。
- ・ 畜養は控える

